お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店にお気軽にお申しつけください。

取扱説明書について

この取扱説明書は

・本機を操作するときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた動力噴霧機で安全かつ能率的な作業をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくためこれだけはぜひ守りましょう‥4
安全ラベル ‥‥‥

定期手入れを行いましょう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

やさしい点検・整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
エンジン　オイルの交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
エア　クリーナ（空気清浄器）の清掃 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
点火プラグの点検・調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
燃料タンクおよび燃料フィルタの清掃 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
燃料チューブの点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
冷却フィンの点検・清掃 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44

長期間使用しないときの手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45

故障のときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

主要諸元・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49

安全にお使いいただくためこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは誰にも本機を使用させないでください。特に子供には操作させないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。
- 本機は農薬の噴霧散布または散水用として使用してください。定められた用途以外に使うと、重大な薬害事故を起こしたり、本機を破損する危険があります。
- 本機の改造は行わないでください。故障の原因となるばかりでなく思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- また次のような人も薬剤の散布をしたり、手伝ったりしないでください。

  ・肝臓や腎臓に障害のある人　・特異体質の人
  ・薬物に敏感な人　・病弱、病後の人　・ケガをしている人
  ・生理時の女性　・妊娠中の人

  薬剤の影響を受け、健康を害するおそれがあります。
- 日常点検、整備を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。また作業中に故障するとポンプ内に残った薬剤で薬害を引き起こすことがあります。

警告

- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意して所定のレベルを超えないように補給し、燃料給油キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、よく乾かしてからエンジンを始動してください。
- 建物の中、ビニール　ハウスの中、壁に囲まれた所など換気の悪い場所ではエンジンを運転しないでください。酸素不足や有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- 本機は平坦な場所で使用してください。不整地(地面が凹凸していたり軟らかい場所)や傾斜地、崖の近くで使用すると、本機が振動により転倒、移動、落下し損傷するばかりでなく、燃料漏れにより火災のおそれがあります。

●農薬の取扱い

- 農薬の散布作業や作業を補助する人は、農薬を吸入したり、直接皮膚に触れないように次の保護具を着用してください。
  - ・防水性のある帽子、長袖、長ズボン
  - ・ゴム手袋、ゴム長靴
  - ・保護メガネ、防除用マスク

  農薬が皮膚に付いたり、吸入すると中毒を起こすことがあります。
- 農薬を散布するほ場はあらかじめ防除計画をたて、前もって除草作業などを済ませ、防除直後のほ場に入らないようにしてください。薬剤により健康を害するおそれがあります。

警告

- 同じ人が長時間あるいは連日散布作業を行わないでください。作業は適度に休憩をとりながら行ってください。疲れた状態では、健康に悪影響を受けやすくなります。
- 薬剤の散布は日中の暑い時や、風の強い時を避けてください。また人通りのある場所、時間(子供の登下校時など)に散布することを避けてください。日差しの強い時に散布作業を行うと、散布した薬液が濃縮されて、薬害を生じるおそれがあります。風の強い時は、薬剤が流され散布地以外への汚染や、人、家畜、養蜂、蚕、水生動物などに薬害を生じる事があります。
- 使用する薬剤のラベル、説明書、注意事項を良く読んで、正しく使用してください。万一に備え薬剤の毒性や応急処置の方法を確認しておいてください。注意事項などを守らないと、重大な薬害事故を引き起こす原因になります。
- 散布作業中は飲酒、飲食、喫煙をしないでください。休憩時や作業の後に食事、喫煙をする場合は、必ず石けんで手や顔を良く洗い、うがいをしてからにしてください。薬剤が体内に入り健康に悪影響を与えます。
- 飲食物を農薬や本機と同じ容器で運搬したり保管しないでください。飲食物が汚染され、薬害事故を引き起こします。
- 残った薬剤は、密封、密栓し、食品や飼料とは区別してカギのかかる農薬保管箱に保管してください。保管が不完全だと重大な薬害事故を引き起こします。

警告

- 使用した機具は、子供や家畜の出入りできない、鍵のかかる場所に保管してください。
  保管が不完全だと子供が触れたり家畜がなめたりして薬害を引き起こします。
- 薬剤の中で、火気厳禁の表示がある物(硫黄、乳剤、油剤など)を火気(たき火、タバコの火など)の近くで使用しないでください。
  保管場所も火の気のない、涼しい場所を選んでください。火災事故の原因になります。
- 使用した機具は良く洗浄してください。洗浄に使った水は、薬害の生じない、自分の管理する非農耕地にすててください。
  機具の洗浄が不完全だと、次に使用するとき別種の薬剤を使用すると、機具に残った薬剤が反応し思わぬ薬害の原因になります。
- 薬剤の空き袋や段ボール箱、プラスティック容器は安全な場所で焼却処分してください。焼却するとき煙を吸い込まないよう注意してください。薬害を引き起こす原因になります。
- 作業が終了したら、入浴して、石けんで体を良く洗ってください。着用した衣服類は全部取り替え洗濯してください。作業に使った衣服を翌日また着用すると、薬剤の影響を受けて体調が悪くなることがあります。

警告

●運転中

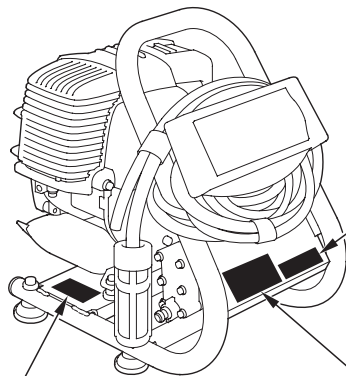
- 使用中は建物およびその他の施設から、本機を１ｍ以上離してください。また本機のまわりに危険物(油脂類、セルロイド、火薬など)や燃えやすい物(わらくず、紙くずなど)を近づけないでください。
  本機の熱や排気ガスにより火災のおそれがあります。
- 使用中や停止直後の本機はエンジン本体やマフラなどが非常に熱くなっています。エンジン本体やマフラなどに触れたり、物をのせないでください。やけどなどの傷害や火災事故を引き起こすおそれがあります。
- 使用中は本機を傾斜させたり、移動しないでください。
  燃料漏れや振動による自然移動、転倒による本機の損傷、故障の原因など思わぬ事故の可能性があります。
- 使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買上げ販売店にご連絡ください。

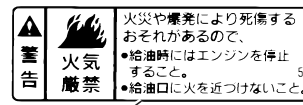
●作業が終ったら

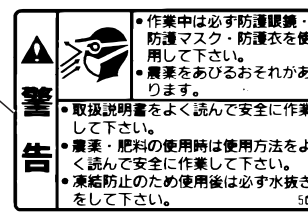
- 点検･整備や清掃するときは必ずエンジンを停止してください。
  また誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチを“停止”の位置にし、プラグ　キャップを取外してください。
  予期しないときにエンジンが始動してケガをするおそれがあります。

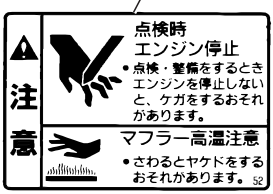
安全ラベル

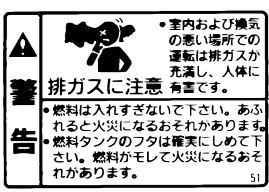
本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルははっきりと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。
安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

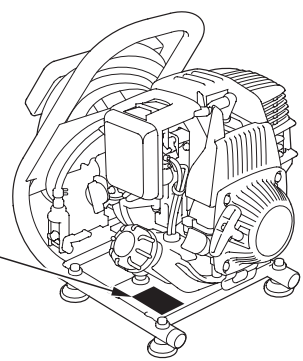




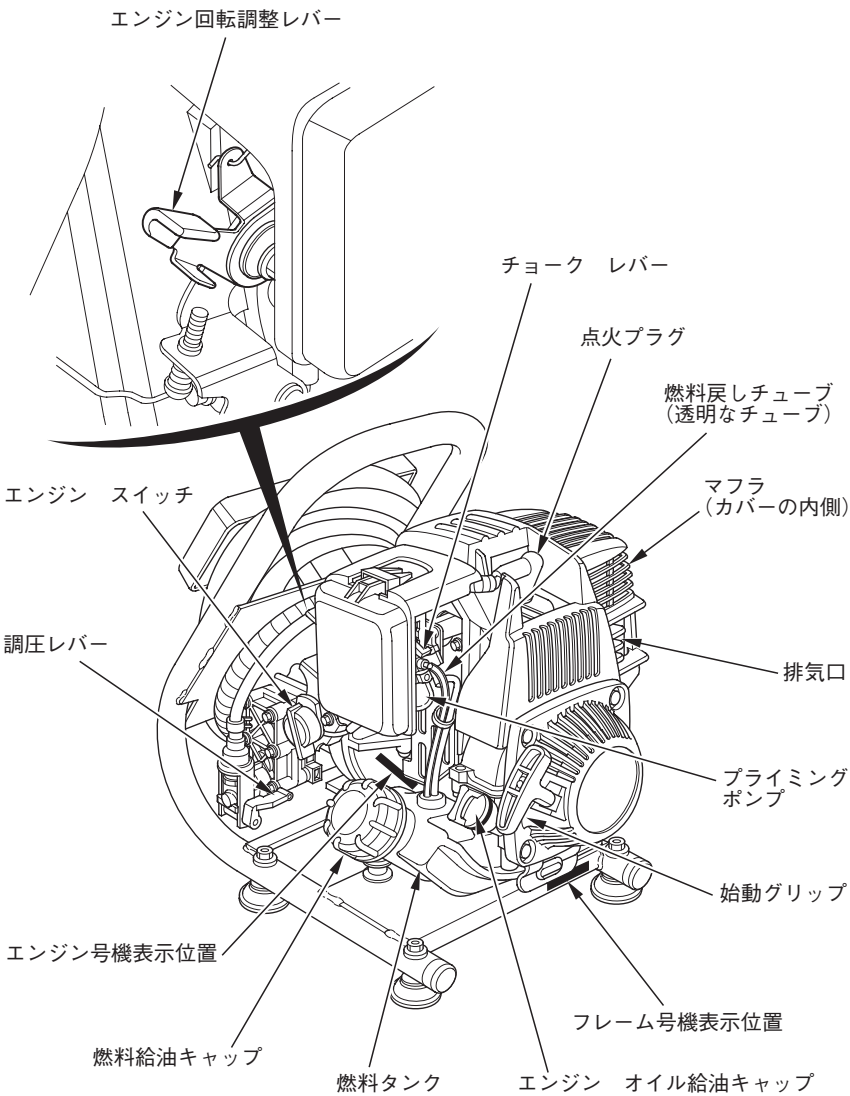


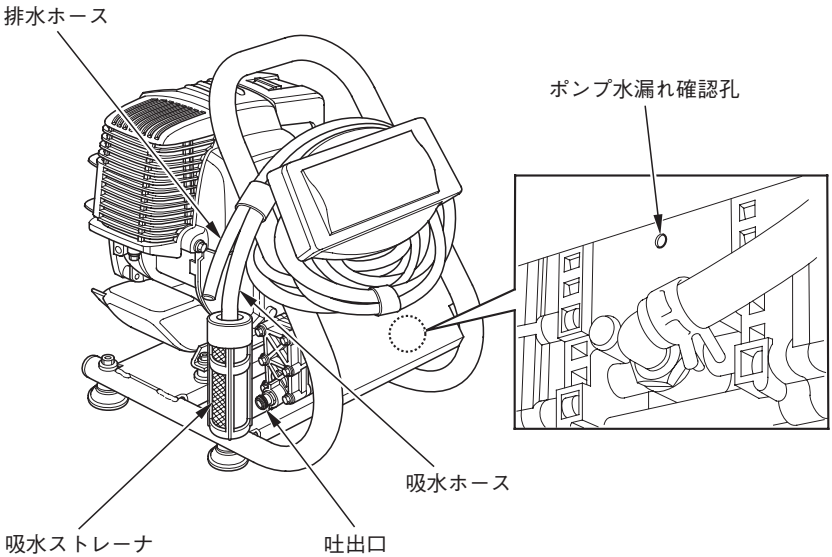


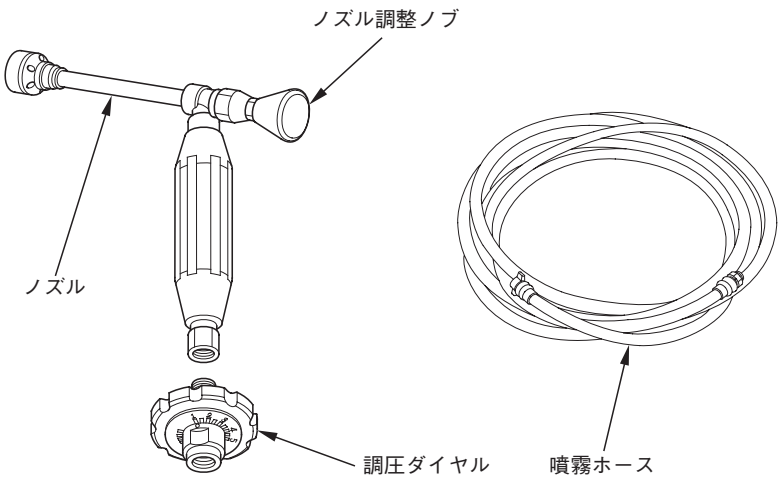




各部の名称と取扱いをおぼえましょう

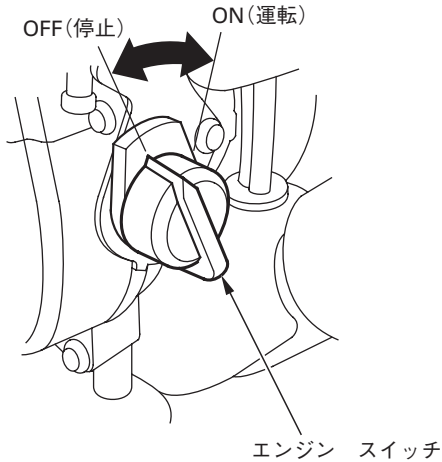



排水ホース
ポンプ水漏れ確認孔
吸水ホース
吸水ストレーナ
吐出口


ノズル調整ノブ
ノズル
調圧ダイヤル
噴霧ホース

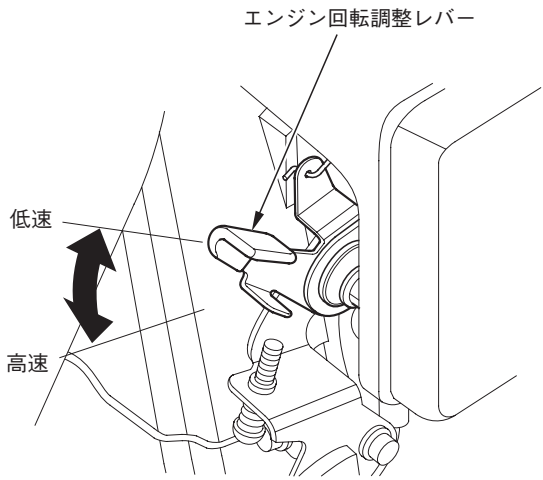
エンジン　スイッチ

エンジンを運転、停止させるときに操作します。



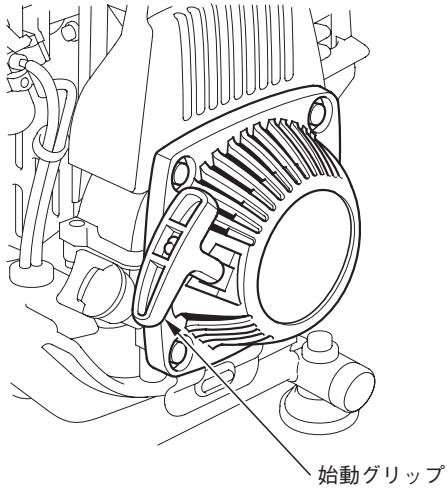
エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するものです。



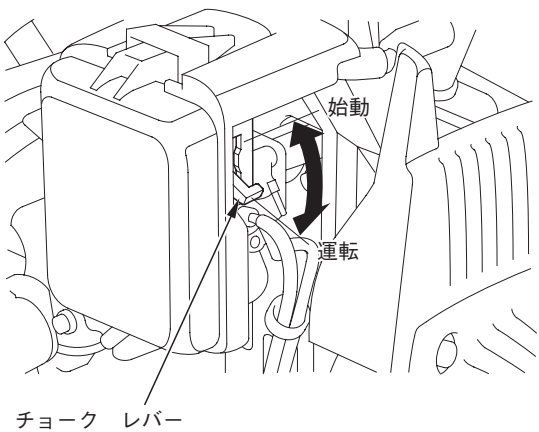
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



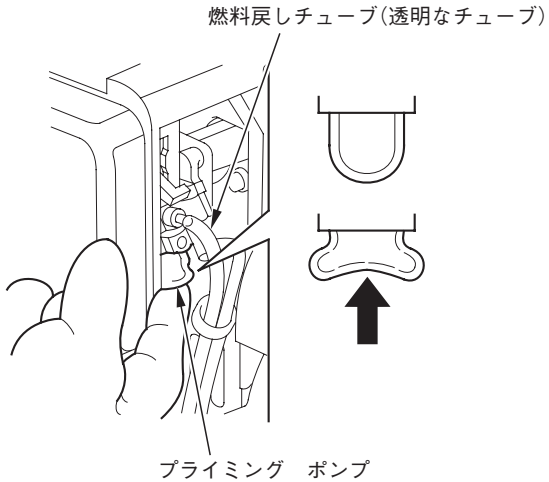
チョーク　レバー

始動時にエンジンが冷えている場合にチョーク　レバーを**“始動”**の位置にします。



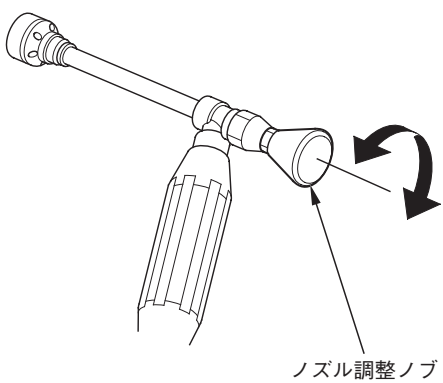
プライミング　ポンプ

エンジンを始動するときに操作します。数回押すことによって、キャブレータ内に燃料を送り込みます。



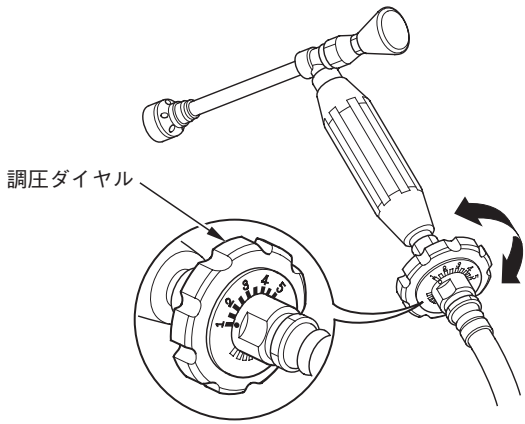
ノズル調整ノブ

噴霧範囲を調整するときに操作します。



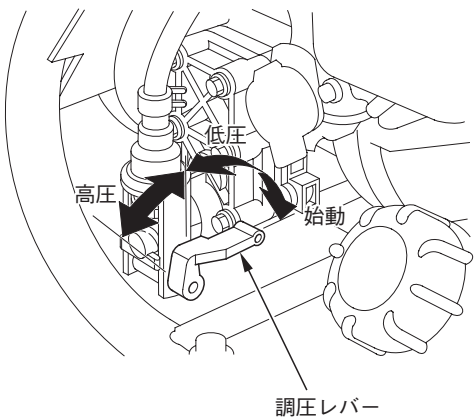
調圧ダイヤル

噴霧圧力／噴霧量を調整するときに操作します。調圧ダイヤルを回転させて圧力を調整します。調圧ダイヤルの目盛りを“1”に合わせると、噴霧が止まります。



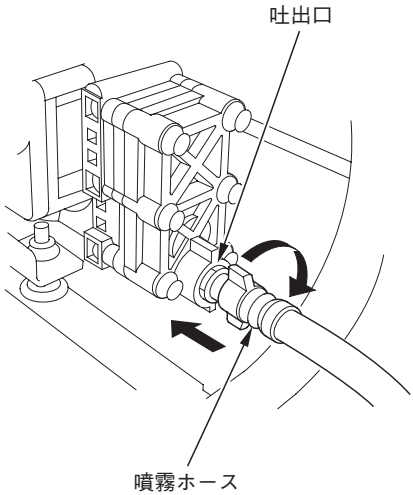
調圧レバー

エンジンを始動、停止するとき、噴霧圧力／噴霧量を調整するときに操作します。

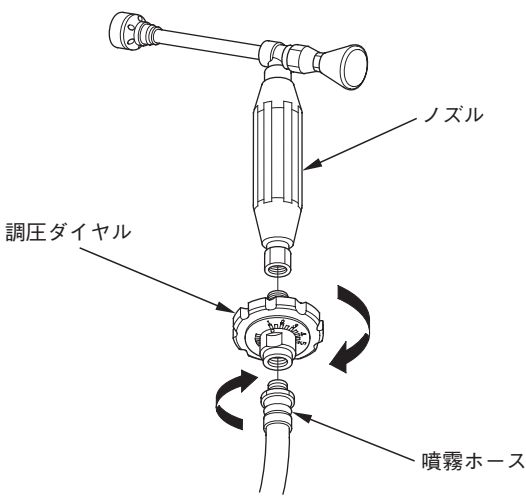


ノズルの組立て

1. 吐出口に噴霧ホースを取付けます。



2. ノズルに調圧ダイヤルおよび噴霧ホースを取付けます。



取扱いのポイント

- パッキンが切れていたり、なくなったりしていないかを確認し、確実に取付けてください。
- 各接続部はしっかり締付けてください。締付けがゆるいと薬液が吹き出すことがあります。
- 噴霧ホースのポンプへの取付けは、まず手でねじ込み、次にプライヤなどで１／８回転回して確実に締付けてください。

エンジンをかける前に点検しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ　キャップを外してください。

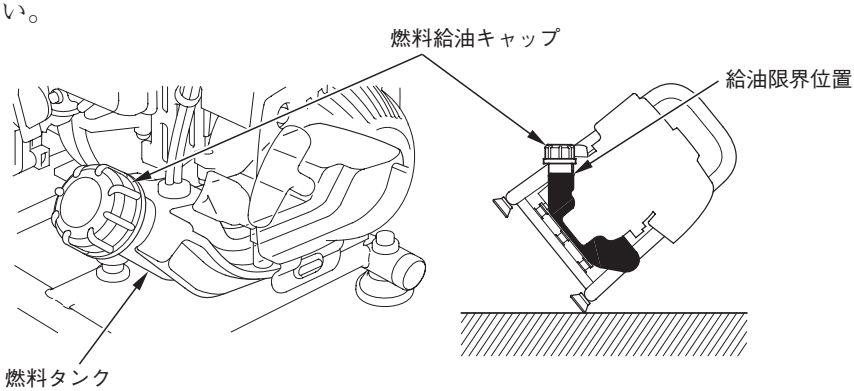
ガソリンの点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは
・エンジンを停止してください。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれた場合は布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。
・燃料は注入口の口元まで入れず、給油限界位置を越えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。

点　検

燃料タンクの外側から液面の位置を確認し、ガソリンがあるか点検します。少ないときには図の給油限界位置を越えないように補給してください。



補　給

使用ガソリン：自動車用無鉛ガソリン

- タンク容量：　0.45ℓ
- 燃料給油キャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部の気圧差と取除いてから、キャップを取外します。一気にキャップを取外すと、燃料がふき出すおそれがあります。
- 給油限界位置を越えないように補給します。
- 補給後、給油キャップを完全に締付けてください。また、給油キャップ取付け部より燃料漏れがないことを確認してください。

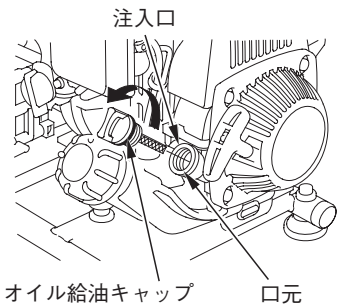
取扱いのポイント

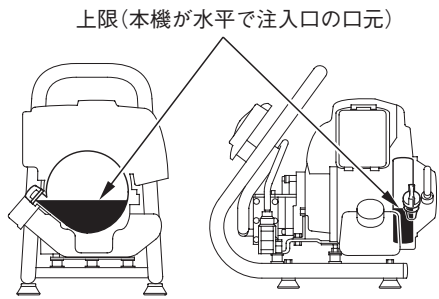
ガソリンにエンジン　オイルを混合した、混合ガソリンを使用しないでください。本機に混合ガソリンを使用すると始動不良、出力低下、燃料系のつまりの原因となります。

エンジン　オイルの点検

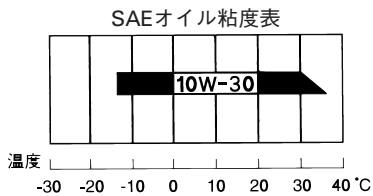
本機を水平にしオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。不足している場合は、新しいオイルを口元まで補給してください。

●汚れや変色の著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は、37頁参照）





推奨オイル：（４サイクル　ガソリン
エンジン　オイル）
Honda純正ウルトラU汎用
（SAE 10W-30）
またはAPI分類SE、SF、
SG級相当のSAE 10W-30オ
イルをご使用ください。



エンジン　オイル量：0.10 ℓ

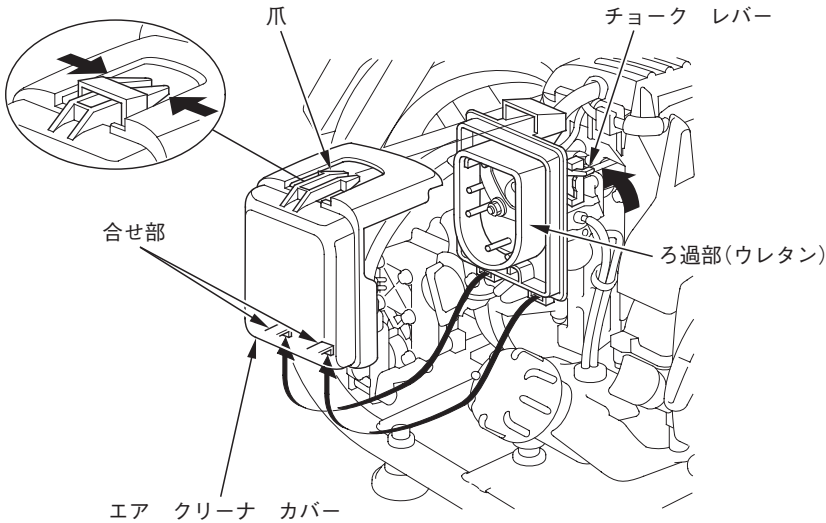
取扱いのポイント

- 本機を連続運転する場合、10時間運転毎にエンジン　オイルの点検、補給を行ってください。
- エンジン　オイルの補給はオイル容量が小さいため、小量に分け注入してください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア　クリーナ(空気清浄器)の点検

エア　クリーナ　カバーを外して、ろ過部(ウレタン)が汚れていないか点検します。

1. チョーク　レバーを上げます。
2. エア　クリーナ　カバーの上部の爪の両端をつまみ、手前に倒して外し、下部の合せ部を外してエア　クリーナ　カバーを取外します。
3. ろ過部(ウレタン)の汚れを点検します。
   汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。(39頁参照)
4. エア　クリーナ　カバーを取付けます。
   取付けは、下部の 2 か所の合せ部を組付けた後、上部の爪を確実に組付けてください。

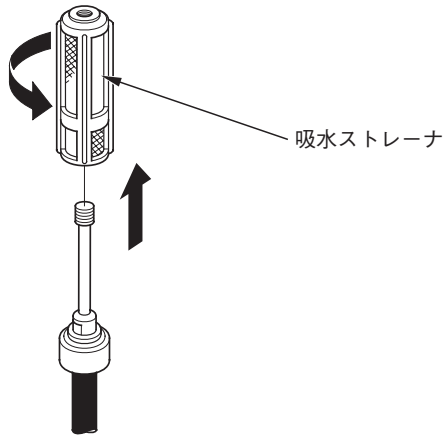


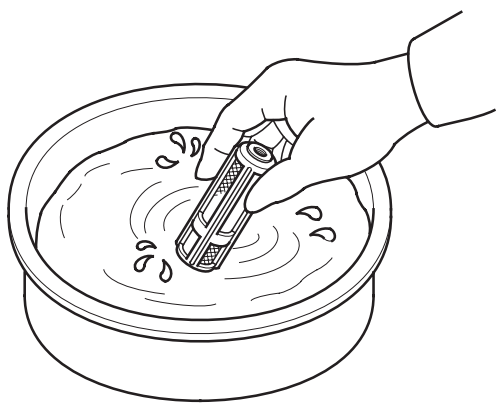
取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

吸水ストレーナの点検･清掃

吸水ストレーナが汚れていないか点検します。
汚れている場合は、吸水ストレーナを外して、清水でゆすぎ清掃してください。





薬液タンクの準備

⚠注意

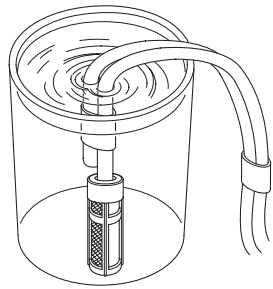
- 飲料用水源および生物を飼育している湖沼からの直接給水は、絶対に行わないでください。
- 薬液タンクは平坦で安定した場所に設置してください。薬液タンクが倒れて薬液がこぼれるおそれがあります。
- 排水ホースからでる薬液がタンクの外に出ないようにしてください。排水ホースからの薬液がこぼれるおそれがあります。
- 水和剤を使用する場合は、薬剤メーカーの取扱説明にしたがい、決められた倍率に希釈し、よく混ぜてから使用してください。水和剤は沈殿しやすいため、早めに散布を完了してください。調合倍率が間違っていると栽培作物に薬害を生じることがあります。よく混合せずに使用すると、散布濃度が不均一になり、薬害を生じる原因になります。

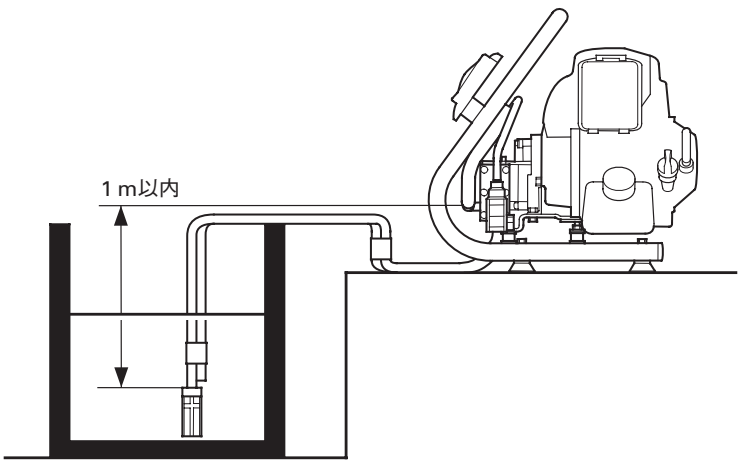
取扱いのポイント

- 薬剤は必ず薬剤メーカーの取扱説明にしたがい、決められた倍率に調合し、よくかきまぜて溶かしてから使用してください。
- 吸水ストレーナの高さは吸水口より1 m以上低い位置にセットしないでください。吸水量の不足や吸水しない原因になり、本機の寿命を縮めます。
- 泥や砂など、異物の多い水は使用しないでください。故障の原因になります。
- 目詰まり防止のため、給水するたびに吸水ストレーナを清掃してください。
- 吸水ストレーナが完全に水中に沈むようにしてください。故障や吸水しない原因になります。

薬液タンクを用意し、タンクの中のゴミや沈殿物を取除いてください。
本機の近くに薬液タンクを置き、薬液を入れます。
排水ホースと吸水ストレーナを薬液タンクの中に完全に沈めます。

- 吸水ホース、排水ホースが薬液タンクの縁などでつぶされないよう注意してください。
- 吸水ストレーナの高さは吸水口より1m以内にしてください。





エンジンのかけかた

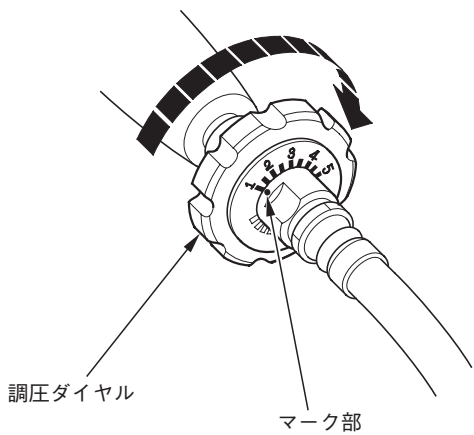
⚠警告

排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

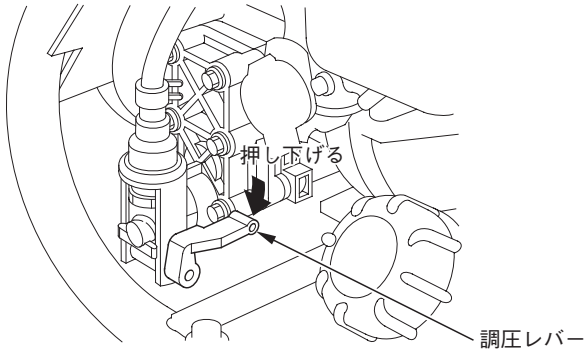
取扱いのポイント

空運転はしないでください。薬液タンクには吸水ストレーナが完全に沈む水位以上の液を入れてください。
空運転を避けるために、噴霧中、ノズルから液が出なくなったらすぐに、エンジン回転を低速にし、アイドリングにするか、エンジンを停止してください。
薬液タンク内の液が吸水ストレーナが沈む水位以下では、ポンプが空気を吸い、作業が出来なくなります。空運転を続けると、ポンプが破損することがあります。

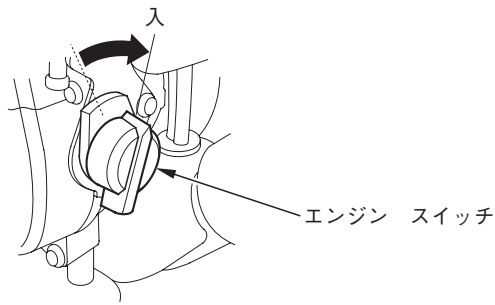
1. 調圧ダイヤルを回してマーク部に“１”の目盛りを合わせます。



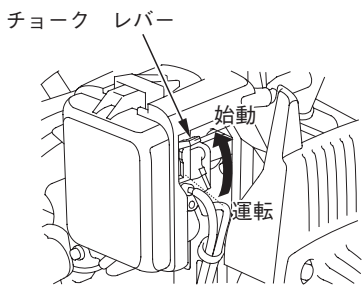
2. 調圧レバーを**“始動”**の位置にし、さらに押し下げます。



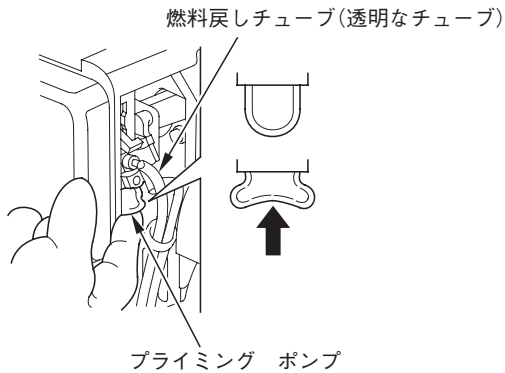
3. エンジン　スイッチを**“入”**の位置にします。



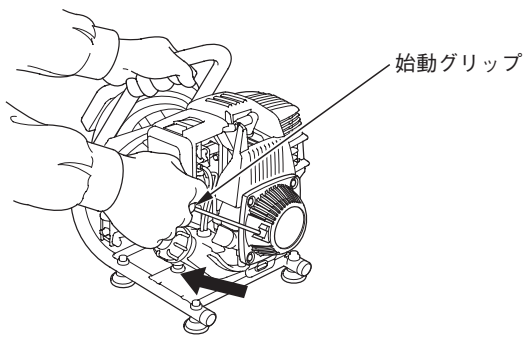
4. 寒いときや、エンジンが冷えているときは、チョーク　レバーを**始動**の位置に合わせます。エンジンが暖まっているときはチョーク　レバーを下げた位置(**運転**)にします。



5. 燃料戻しチューブ(透明なチューブ)の内側でガソリンが移動するまで、プライミング　ポンプを押します。



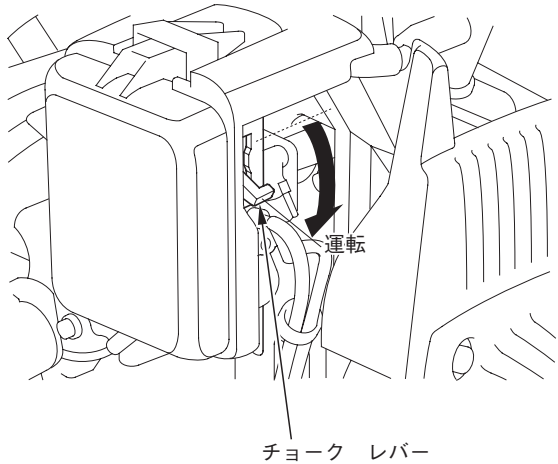
6. 本機をしっかり押さえ、始動グリップを勢いよく引きます。



取扱いのポイント

- 始動グリップは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。
- 始動グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

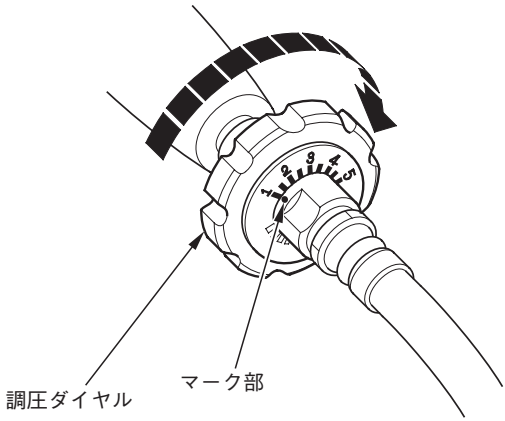
7. チョーク　レバーを**始動**にしたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に**運転**の方向に戻します。



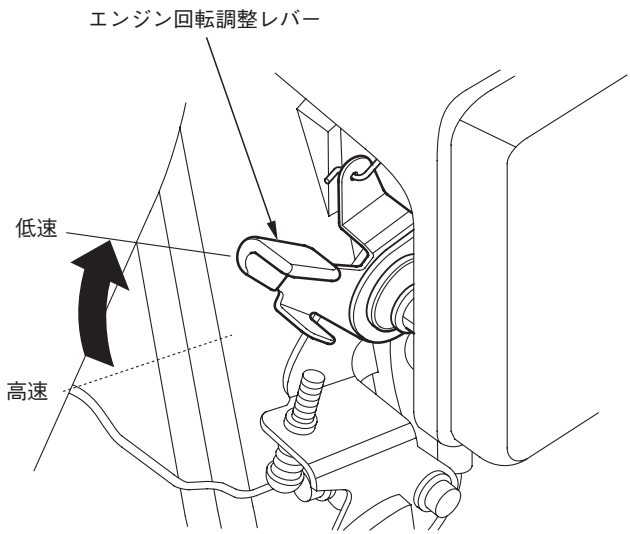
8. 2 ～ 3 分間暖機運転を行ってください。

エンジンのとめかた

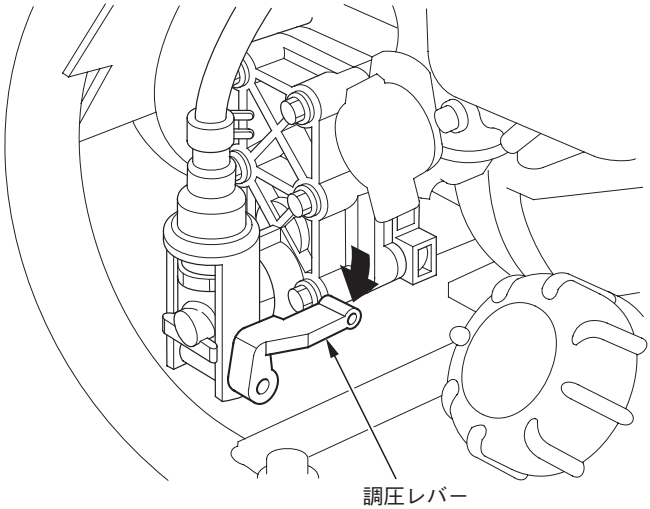
1. 調圧ダイヤルを回してマーク部に“１”の目盛りを合わせます。



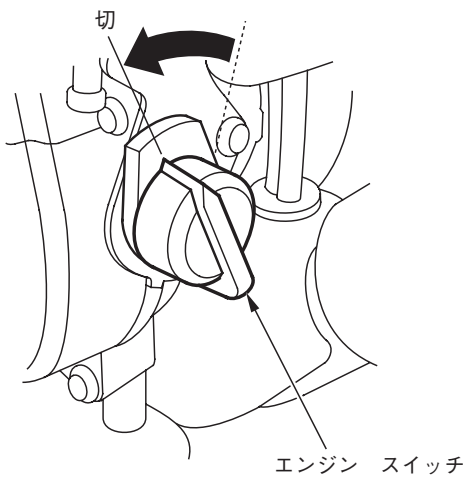
2. エンジン回転調整レバーでエンジン回転を最低速にします。



3. 調圧レバーを**“始動”**の位置にします。

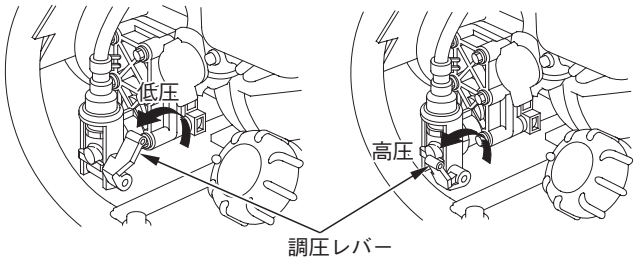


4. エンジン　スイッチを**“切”**の位置にします。

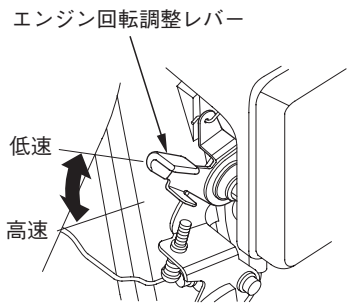


運転操作のしかた

1. エンジンを始動します。(エンジンの始動方法は25頁参照)
2. 噴霧圧力／噴霧量に応じて、調圧レバーを“低圧”または“高圧”の位置にします。



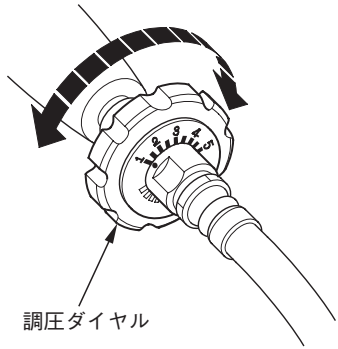
3. エンジン回転調整レバーを操作して、エンジン回転を調整します。



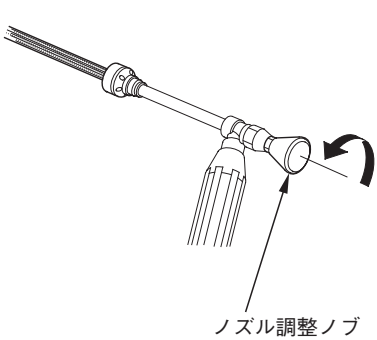
取扱いのポイント

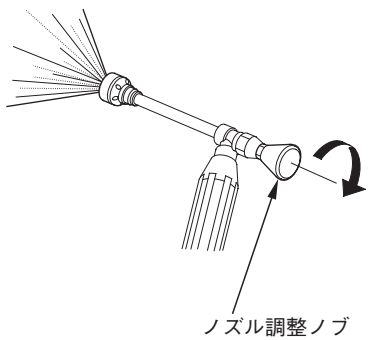
- エンジン回転数は調圧レバーを“高圧”の位置にした状態で全開にすると6,500 rpmになるように、エンジン回転調整レバーがストッパーで調整されてます。ストッパーの位置をかえたり、調圧レバーを“始動”または“低圧”の位置にした状態での全開運転など、無理な高速回転をさせないでください。無理な高速回転はポンプの効率を低下させ、エンジンとポンプに悪影響をあたえます。
- 本機には、遠心クラッチが採用されていますので、エンジンが低速回転中はポンプが回りません。クラッチのすべっている回転域でのご使用はお避けください。クラッチが破損することがあります。

4. ノズルを握り、調圧ダイヤルを回して噴霧圧力／噴霧量を調整します。



5. 必要に応じて、再度エンジン回転を調整します。
6. 水流を調整したいときはノズル調整ノブを回して調整します。ノブを左回り（反時計回り）に回すと直線状の水流になります。ノブを右回り（時計回り）に回すと扇状の水流になります。





取扱いのポイント

ノズル調整ノブを右回り（時計回り）にいっぱいに回すと噴霧が止まりますので、一旦左周りに戻してから再度調整しなおしてください。

散布作業

⚠警告

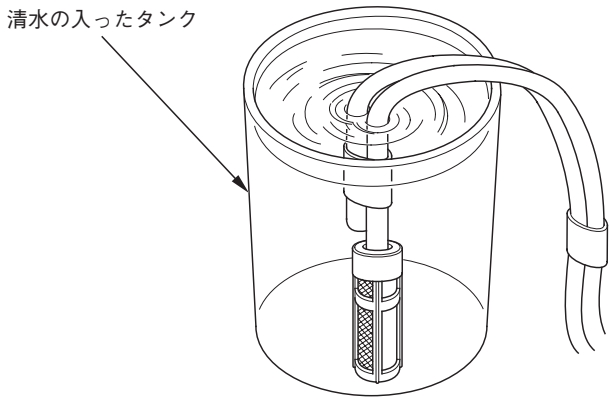
- 薬剤が皮膚についたときは、すぐに石鹸水で洗い、衣服に浸透しているときは、衣服を交換してください。
- 作業後･作業中に少しでも、めまい、頭痛、吐き気、腹痛などを感じたときは、直ちに、医師の診断を受けてください。このとき、使用農薬名と散布作業の内容(作業時間、作業面積、作業方法など)を医師に報告してください。
  早急な手当てを受けないと、重大な薬害事故となります。
- 農薬散布時は、ノズルを人の方向に向けないでください。子供、その他関係者以外の人が、作業する場所に近付いたときには作業を中止してください。
- 散布作業時は風向きを確かめ、体を風上において、薬剤が体にかからないようにします。
  また、風下から風上方向に作業を進め、散布済みの場所で、作物に付着した薬剤が体に触れないようにします。
  薬剤を吸ったり、触れたりすると、健康に悪影響を及ぼします。

取扱いのポイント

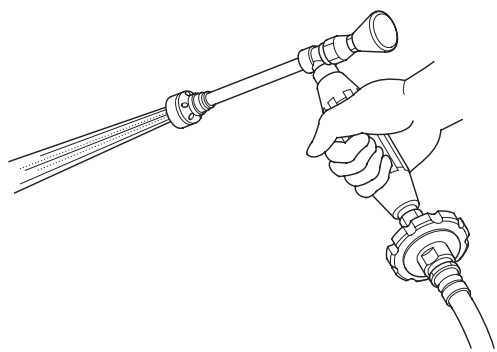
噴霧がとぎれたり、勢いがなくなったり、エンジン回転が急に高くなったりしたときは、薬液タンクが空になっています。エンジン回転調整レバーでエンジンの回転を下げ、エンジン　スイッチを切にし、エンジンを停止して、薬液を補給してください。

使い終わったら

1. エンジン回転調整レバーでエンジンの回転を徐々に下げ、アイドリングでしばらく冷却運転を行った後、エンジンを停止します。
2. 排水ホースと吸水ストレーナを清水の入ったタンクに移し替えます。



3. エンジンを再始動します。調圧レバーを**“始動”**と**“高圧”**に 3 ～ 4 回切り換えながら、2 ～ 3 分間噴霧します。洗浄が終わったら、エンジンを停止します。



⚠注意

- 作業終了後の洗浄は、必ず行ってください。
  機具を良く洗浄せず、別種の薬剤を使用すると、ポンプやホース内に残っていた前の薬液と混じり合って、薬害を引き起こします。
- タンク内に残った薬液や、洗浄に使った水は、薬害の生じない、自分の管理する非農耕地に捨てます。
  決して川や、池などに流したり、川や池の付近に捨てたりしないでください。川や池の近くに洗浄水を捨てると、水生動植物などに薬害を生じます。

取扱いのポイント

洗浄後、ポンプから噴霧ホースを外し、排水ホースと吸水ストレーナをタンクから引き上げ、吐出口から水が出なくなるまで運転して、完全にポンプ内の水を抜いてから、調圧レバーを“始動”にしてから保管してください。ポンプ内に水分が残っていると、凍結した場合にポンプを破損することがあります。

定期手入れを行いましょう

お買いあげいただきましたHonda定置型動力噴霧機をいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

定期点検整備項目

点検項目 ＼ 点検時間〈注３〉		作業前点検	初回1か月目又は10時間運転目	3か月毎又は25時間運転毎	6か月毎又は50時間運転毎	1年毎又は100時間運転毎	2年毎又は300時間運転毎
エンジン　オイル	点検	○					
	交換		○		○		
エア　クリーナ	点検	○					
	清掃			○〈注１〉			
点火プラグ	点検、調整					○	
	交換						○
冷却フィン	点検、清掃				○		
各部締め付け	点検	○					
アイドル　スピード	点検、調整					○〈注２〉	
吸入、排気弁のすき間	点検、調整					○〈注２〉	
燃焼室	清掃	300時間運転後毎〈注２〉					
燃料フィルタ	清掃					○	
燃料タンク	清掃					○	
燃料チューブ	点検	2年毎(必要なら交換)〈注２〉					
クラッチ　シュー、ドラム	点検				○〈注２〉		
ポンプ液漏れ	点検	○〈注４〉					
Vパッキン	交換				○〈注２〉		
タンク　フィルタ	点検、清掃	○					

〈注１〉 ホコリの多い所で使用した場合、エア　クリーナの清掃は10時間毎または１日１回行ってください。

〈注２〉 これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

〈注３〉 点検時期は表示の期間毎又は運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

〈注４〉 始動後にポンプ水漏れ確認孔(11頁参照)よりの水漏れ有無をチェックしてください。

⚠注意
点検・整備は平坦な場所に本機を水平に置き、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ　キャップを外してください。

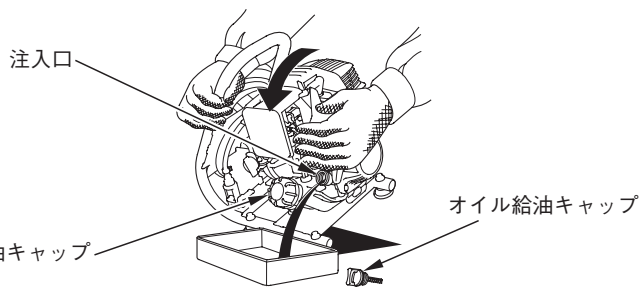
エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

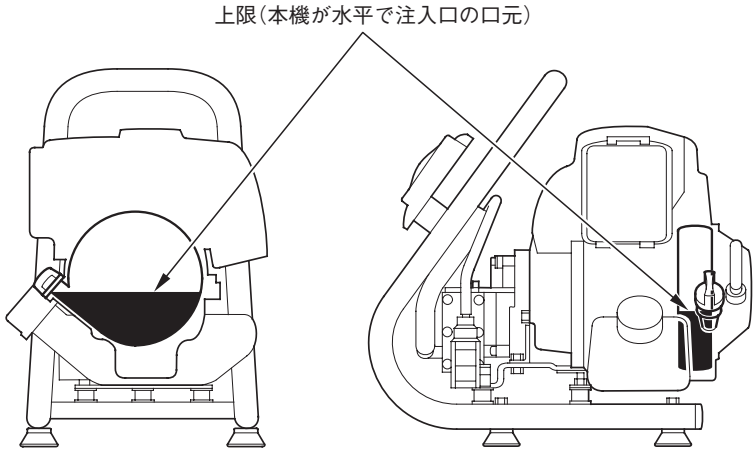
⚠注意
エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

《交換時期》
初回：1か月または10時間運転時、以後：6か月または50時間運転毎
《推奨オイル》(4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル)
Honda純正ウルトラU汎用(SAE 10W-30)
またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE 10W-30オイルをご使用ください。
《規定量》 0.10ℓ

《交換のしかた》
1. 燃料給油キャップが締付けられていることを確認します。
2. オイル給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、オイルを抜きます。オイルは、容器に受けてください。



3. 本機を水平にし、エンジン　オイルを注入口の口元まで注入します。



4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。

取扱いのポイント

- 交換後のエンジン　オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適切に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげになったお店にご相談の上処理してください。
- オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃

エア　クリーナが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

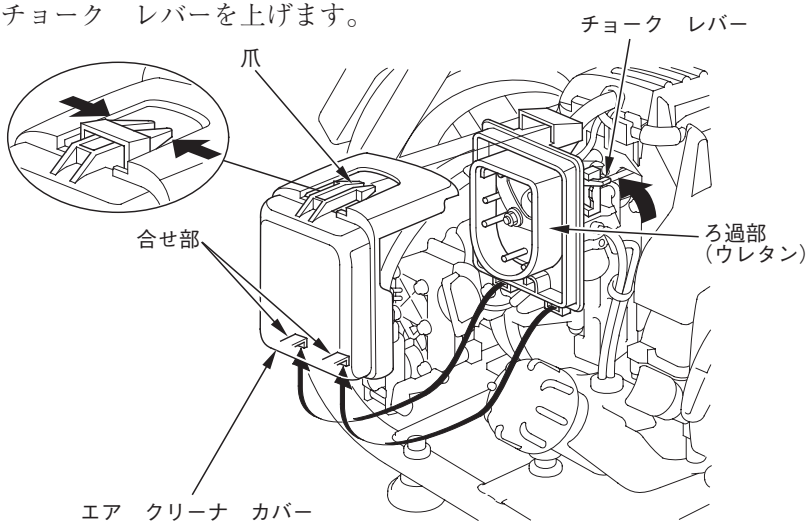
⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
洗浄は換気の良い場所で行ってください。

《清掃時期》　3か月毎または25時間運転毎
ホコリの多い場所で使用した場合は1日1回または10時間毎。

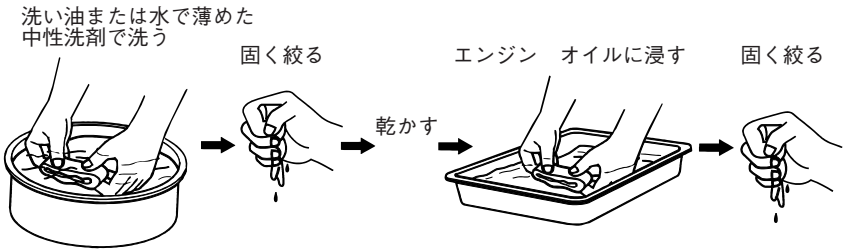
《清掃のしかた》

1. チョーク　レバーを上げます。



2. エア　クリーナ　カバーを取外し、ろ過部(ウレタン)を取外します。
   エア　クリーナ　カバーの取外しは、爪の両端をつまみ、手前に倒して上部を外した後、下部の合せ部を離して行います。
3. ろ過部を洗い油または水で薄めた中性洗剤でよく洗い、よく絞ってから乾かします。

4. ろ過部をエンジン　オイルに浸した後、固く絞ります。
5. ろ過部、エア　クリーナ　カバーを取付けます。エア　クリーナ　カバーの取付けは、2 か所の合せ部を組付け後、上部の爪を確実に組付けて行います。



取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

点火プラグの点検･調整

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

エンジン停止直後マフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分に冷えてから行ってください。

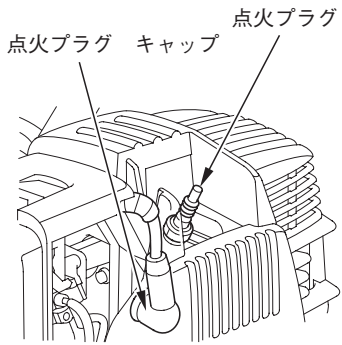
《点検･調整時期》

1年毎または100時間運転毎

《清掃のしかた》

1. 点火プラグ　キャップを外し、点火プラグを取外します。
2. プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

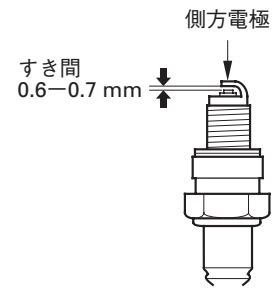
● プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。



《調　整》

4. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

   火花すき間：0.6－0.7 mm



《交換》

2年毎または300時間運転毎

《標準プラグ》

CR5HSB (NGK)　U16FSR-UB (DENSO)

取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
  点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないようにまず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締込んでください。
- 点検調整後は点火プラグ　キャップを確実に取付けてください。
  確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。

燃料タンクおよび燃料フィルタの清掃

燃料タンク内に水やゴミがたまったり、燃料フィルタが目詰まりするとエンジン不調の原因となります。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

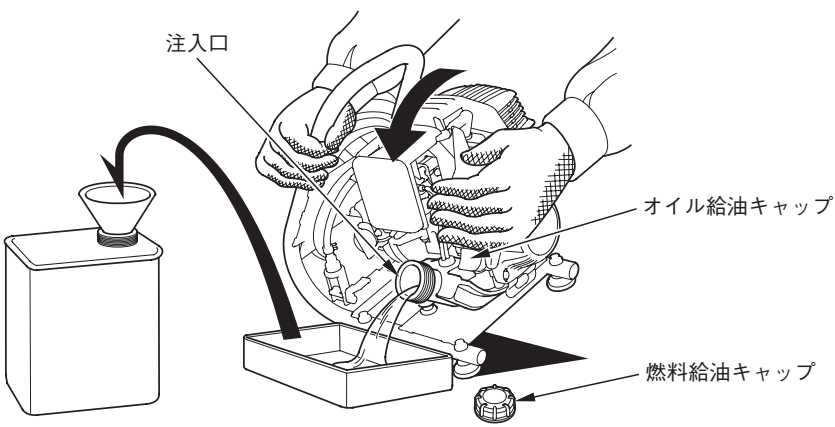
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

《清掃時期》

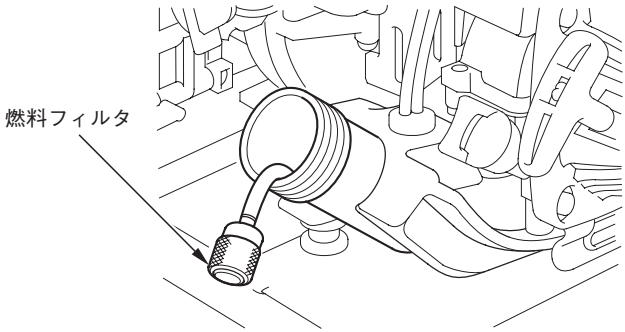
1年毎または100時間運転毎

《清掃のしかた》

1. オイル給油キャップが締付けられていることを確認します。
2. 燃料給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、ガソリンを抜きます。ガソリンは容器に受けてください。



3. 燃料フィルタを針金などを使い、注入口から引き出します。



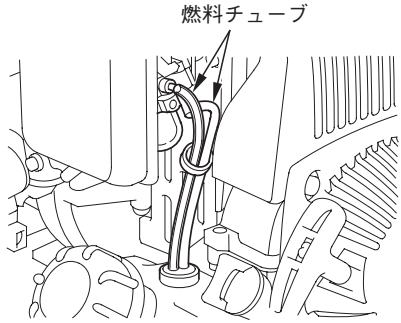
4. 燃料タンク内部を洗い油でよく洗い、底にたまったゴミや水を取除きます。
5. 燃料フィルタを洗い油で洗い、燃料フィルタ表面の汚れを落とします。燃料フィルタの汚れが著しい場合は、交換してください。
6. 燃料フィルタを燃料タンク内に戻し、燃料給油キャップを確実に締付けます。

燃料チューブの点検

《点検時期》 2年毎

《点検のしかた》

燃料チューブに劣化、ひび割れ、燃料漏れがないことを確認します。
異常がある場合は交換が必要です。
お買いあげの販売店で実施してください。

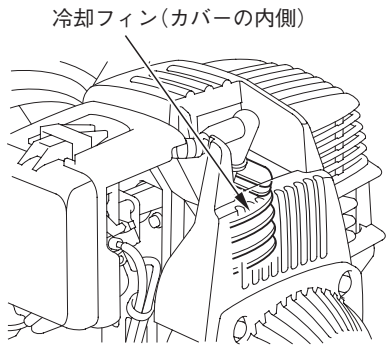


冷却フィンの点検・清掃

《点検時期》 6か月毎又は50時間運転毎

《点検のしかた》

冷却フィンを目視で点検し、草、芝、泥などによる詰まりがないことを確認します。
詰まりがある場合は清掃してください。清掃はお買いあげの販売店にご相談ください。



長期間使用しないときの手入れ

★長時間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

⚠警告

手入れを行う場合は、平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ　キャップを外してください。

⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体マフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

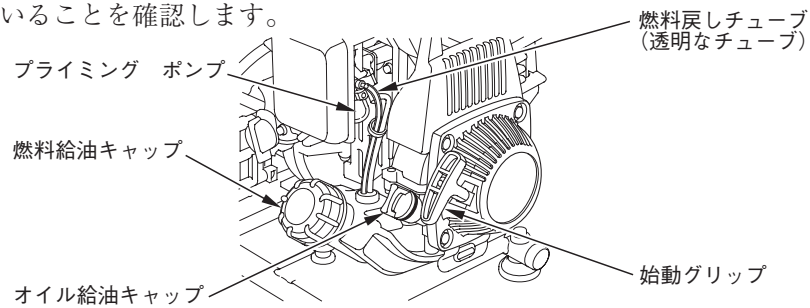
1本機の表面から、薬剤やゴミなどの付着物を取除いてください。
2燃料タンク、キャブレータ内のガソリンを抜いてください。

⚠警告

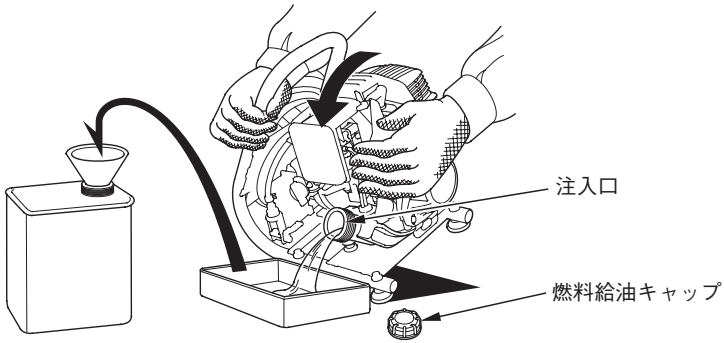
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

《抜きかた》

1. エンジン　オイル給油キャップが締付けられていることを確認します。



2. 燃料給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、ガソリンを抜きます。ガソリンは容器に受けてください。



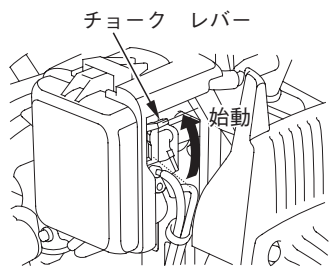
3. 燃料給油キャップを取付けます。
4. 燃料戻しチューブ(透明なチューブ)内のガソリンがなくなるまで、プライミング　ポンプを押します。
5. 再度、燃料給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、ガソリンを抜きます。ガソリンは容器に受けてください。
6. 燃料給油キャップを確実に締付けます。

3 エンジン　オイルを交換してください。(交換方法は37頁参照)

4 エア　クリーナ(空気清浄器)を清掃してください。(清掃方法は39頁参照)

5 始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。

6 チョーク　レバーを上げ、**始動**の位置にしてください。



7 保管は、子供や家畜の出入りできない、鍵のかかる場所にしてください。また、火の気のない、湿気やホコリの少ない場所を選んでシート等をかけて保管してください。

故障のときは

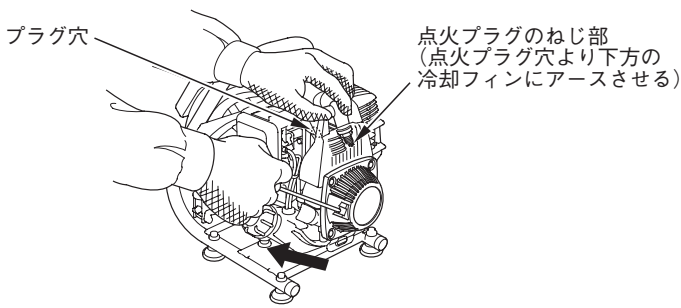
まずご自分で次の点検を行い、その上でなお異常のあるときには、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

1. 始動方法は取扱説明書通りですか?
2. ガソリンはありますか?
3. 点火プラグ　キャップは確実に取付けられていますか?
4. 点火プラグは汚れていませんか、また火花は出ていますか?

点火プラグの火花確認手順

1. 点火プラグから点火プラグ　キャップを取外します。
2. 点火プラグをエンジンから取外し、点火プラグ　キャップに取付けます。
3. 点火プラグ穴から離れた場所で、点火プラグのネジ部をエンジン本体に確実にアースさせます。(感電を避けるため点火プラグ　キャップ以外には触れないでください。)
4. エンジン　スイッチを始動の位置にして始動グリップを引き、そのとき点火プラグの電極に火花が出るか確認してください。
   - 火花が出ないときは、新しいプラグと交換してください。プラグを交換してもなお火花が出ない場合は、点火系統の故障です。



⚠警告

この点検をする前に、点火プラグ穴周辺やその他のところにガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、または布きれなどで完全に拭きとってから行ってください。

⚠注意

点火プラグはプラグ穴から離した場所で確実にアースし、プラグキャップ以外には触れないで点検を行ってください。感電のおそれがあります。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・燃料がこぼれた場合は、点火プラグの火花確認やエンジンを始動する前にふき取り、良く乾かしてから行ってください。
・ガソリンに引火するおそれがあるので点火プラグ穴の近くで火花確認をしないでください。また点火プラグ穴に手や顔を近づけないでください。

●火花が出ないときは、新しい点火プラグと交換するか、お買いあげ販売店にお申しつけください。

ポンプが吸水しないときは次の点を確認しましょう。

●吸水ストレーナがつまっていませんか。→22頁
●吸水ホースのつまり、損傷はありませんか。
●吸水ストレーナは完全に水中に沈んでいますか。→23頁
●吸水ストレーナの高さは吸水口より1 m以内に設置されていますか。→23頁
●エンジンの回転が低すぎませんか。→31頁

圧力が上がらない

●ノズルのつまり、ノズルの穴の損傷はありませんか。
●調圧レバーは正しい位置にセットされていますか。→15頁

主要諸元

機種名		WJ105
タイプ		J, JH
全長×全幅×全高		364 × 254 × 360 mm
乾燥重量		7.6 kg
動力噴霧機	ポンプ形式	水平対向プランジャー
	ノズル噴霧量	0ー2.8 ℓ／分
	圧力	0－2.5 MPa (0－25 kgf/cm²)
	付属ノズル	ピストル型噴口
	噴霧ホース	Ø8.5 mm × 10.0 m
	吸水ホース	Ø9.0 mm × 2.0 m（吸水ストレーナを含む）
	排水ホース	Ø4.5 mm × 1.9 m
	遠心クラッチ	有
	噴霧圧力調整	ポンプ側レバー、手元
エンジン	名称	GX22
	形式	強制空冷 4 ストローク単気筒ガソリンOHV
	総排気量	22 cm³
	最大出力	0.74 kW (1.0 PS)/7,000 rpm
	始動方式	リコイル式（メカニカルデコンプ装備）
	点火方式	トランジスタ　マグネト点火
	燃料タンク容量	0.45 ℓ
	オイル容量	0.10 ℓ
	点火プラグ	CR5HSB (NGK) U16FSR-UB (DENSO)

注意：諸元は予告なく変更することがあります。

メ　モ

メ　モ

メ　モ